令和８年度福島県生涯学習審議会議事録

１　日　時　　令和８年９月８日（火）１０：００～１１：４０
２　場　所　　福島県自治会館　３０１会議室
３　出席者　　別紙名簿のとおり
４　議　事
（１）福島県生涯学習基本計画の進行管理について
（２）その他
５　内　容
（１）開会（司会　大塚生涯学習課社会教育主事）
（２）挨拶（紺野文化スポーツ局長）
（３）委員紹介
（４）定足数確認
　○事務局より
　　委員１５名のうち、１２名が出席。福島県生涯学習審議会条例第５条第３項により、定足数（過半数）を満たすことから、本審議会が成立することを報告。
（５）会長及び副会長の選出
　○会長に福島大学木暮照正委員、副会長に東日本国際大学李和貞委員が選任された。
（６）挨拶（木暮福島県生涯学習審議会長）
【木暮会長】
　本審議会は年１回の開催であり、限られた時間だが、委員の皆様それぞれのお立場や御専門の見地から、建設的で前向きな御意見をいただきたい。また、円滑な議事進行に御協力いただきたい。

（７）議事録署名人選出
　○議長の指名により、髙野武彦委員、山﨑英明委員が選任された。
（８）福島県生涯学習基本計画について
　○事務局（中村生涯学習課長）より
　　策定趣旨、基本目標、推進施策等について説明。
（９）福島県生涯学習基本計画の進行管理について
　○事務局（中村生涯学習課長）より
　　施策の方向、令和７年度の主な取組、指標の達成状況、令和８年度の主な取組予定について説明。
　○上記の件に関して説明し、以下の質疑等があった。
【三瓶委員】
　指標については、実績を踏まえながら課題を見つけていくことが重要であると考える。
　オンライン学習については、コロナ禍を契機として利活用が進んだが、その後は対面による学びの重要性も再認識されている。一方で、ＹｏｕＴｕｂｅやＪＭＯＯＣなどオンライン学習環境も発展しており、福島県ならではの顔が見えるオンライン講座なども考えられるのではないか。
　また、「ふくしまマナビｉ(ｱｲ)」については、活用する団体とそうでない団体の二極化が進んでいるのではないかと感じる。知らない方もいると思われるので、更なる周知に取り組んでいただきた

い。

さらに、「デジタルデバイド解消事業」については、従来のパソコンやインターネット利用の格差だけでなく、ＡＩを使いこなせるかどうかという視点も重要になっていると思う。

最後に、「建設業の魅力・やりがい創出支援事業」を新規事業としている理由を伺いたい。

【中村生涯学習課長】

オンライン講座については、対面の学習需要が戻ってきている一方、オンラインも含めた多様な学びの形態を確保することは重要であると考えている。

「ふくしまマナビｉ(アイ)」については、市町村等の講座登録者向けの周知に加え、チラシ作成やSNS活用等により、一般県民向けの広報にも力を入れていきたい。

デジタルデバイド解消については、適切なデジタルリテラシーの向上が重要であると考えている。ＡＩは使ってみると意外と簡単なので、ＡＩの講座も促進したい。

「建設業の魅力・やりがい創出支援事業」については、建設業界におけるデジタル化や人材確保等を目的として、令和８年度から土木部が新たに実施する事業であることから、新規事業としている。

【長谷川委員】

「県立美術館の入館者数」や各種「講座受講者数」など、多くの指標がＡ又はＢ評価となっていることは素晴らしい。

一方、生涯学習の対象世代やニーズは変化していると感じており、開催する曜日や時間帯なども含めて工夫が必要ではないか。

また、人口減少社会においては働く世代の参加促進が重要である。インターネット上には有益な情報も多いが、誤情報も存在するため、情報リテラシーを学ぶ機会の充実も必要と考える。

博物館等の取組についても安定した実績が見られ、大変評価できる。

【原委員】

「福島県次世代育成支援企業認証数」について関心を持っている。

また、近年の猛暑を踏まえ、体育館における熱中症対策の状況について伺いたい。

さらに、子育て世代向けのスポーツや学習イベントの充実が図られるとよいと思う。

加えて、「オンラインを活用した生涯学習講座数」については毎年低い評価となっているが、高齢世代の中にはデジタル機器の利用方法が分からず、諦めてしまう方もいる。世代に応じた支援が必要であると考える。

【飯塚スポーツ課長】

各市町村において体育館への空調設備整備が進められている。また、県立高校についても計画的にエアコン設置を進めている。

子育て世代のスポーツイベントについては、総合型地域スポーツクラブなどにおいて様々な活動を行っており、より周知広報活動に努めながら親子が参加できるスポーツ活動を推進していきたい。

【髙野委員】

県立美術館で開催された「大ゴッホ展」及び「金曜ロードショーとジブリ展」は大変素晴らしい企画であり、多くの来場者を集めたことを高く評価している。こうした企画展については、来館者数だけでなく、交通機関の利用や宿泊、飲食等を含めた経済波及効果の検証も重要と考える。

また、来館者が美術館だけを訪れて帰るのではなく、県内各地を周遊し、地域活性化につながる

仕組みづくりが求められる。文化施設は文化観光や交流人口拡大の拠点として重要な役割を担っていることから、美術館や博物館を核とした地域づくりの視点を今後も重視していただきたい。

足利市・足利市立美術館では、経済波及効果を試算しているし、これを契機に移住した人もいる。

さらに、生涯学習基本計画の基本目標は大変良い内容であるが、人口減少社会においては「人を呼び込む」だけでなく、「住み続ける」視点も重要と考える。住み続けるということは、その地域を選んでもらっているということ。文化・芸術は差別がなく、年齢や障がいの有無、経済状況にかかわらず多くの人が感動を共有できるものであり、地域への愛着の醸成や地域コミュニティの活性化につながるし、企業と連携したり、外国人を巻き込んだりと広げられることから、今後の施策推進においても重要な役割を果たすと考える。

【髙村文化振興課長】

「大ゴッホ展」については、関連イベントやコラボ事業、交通機関との連携など様々な取組を実施した。経済波及効果については、アンケートの集計結果等も踏まえながら検討していきたいと考えている。

【永山委員】

県立美術館で開催された「大ゴッホ展」や「金曜ロードショーとジブリ展」については、関係部局や現場の方々の大変な御尽力があったものと拝察している。入館者数を指標とすることは理解できるが、美術館や博物館には数値化できない価値もある。

昨今は国際情勢や円安の影響により、海外から作品を借用して展覧会を開催することが非常に難しくなっている。そのような状況の中で、「大ゴッホ展」のような大規模企画展を福島県で開催できたことは大変意義深いことである。また、このような展覧会は一時的な集客だけではなく、長期的には県民の郷土愛や文化芸術への関心の醸成につながるものである。

今後も美術館・博物館の活動を継続していくため、予算面も含めた配慮をお願いしたい。

【森下委員】

様々な素晴らしい事業に取り組まれていることを大変心強く感じた。

一つ目は、周知の重要性についてである。多くの事業は県民の関心が高いと思われるが、情報が十分に届いていない場合もある。日本銀行でも各種事業を実施しているが、個別に紹介すると「知らなかった」「それなら参加してみたい」という反応をいただくことが多い。これまでも取り組まれていると思うが、改めて周知をお願いしたい。

二つ目は「オンラインを活用した生涯学習講座数」についてである。コロナ禍が明けて対面の価値が再認識されていることは理解できるが、オンラインだからこそ実施できる内容もある。例えば、通常は入ることのできない施設をＶＲ等で体験できる講座など、オンラインならではの特色ある取組をご検討いただきたい。

【山﨑委員】

いろいろな取組をされていると感じた。私は今年４月に首都圏から福島県へ移住したが、福島県は広大で地域差も大きく、それぞれの地域に特色があると感じている。

今回の「大ゴッホ展」については、上野の森美術館でも鑑賞したが、福島会場では展覧会を地域全体で盛り上げている印象を受けた。また、県立美術館は建物や周辺環境も大変魅力的であり、文化資源として高い価値を有していると感じている。今回の企画展は大成功であったが、第２期も行われる予定であり、一過性の取組で終わらせず、今後の文化振興や誘客施策につなげていくことが

重要である。

また、C評価やD評価となった指標については、単純な数値だけでは評価できない面もあることから、目標設定や評価方法の在り方も含めて総合的に検討する必要がある。

さらに、「ふくしまマナビｉ(ｱｲ)」については、アクセス数や登録講座数だけではなく、利用者が実際にどのような学習機会につながったのか、その活用状況についても把握しながら改善を進めていただきたい。

【中村生涯学習課長】

C評価及びD評価の指標については、目標設定や評価方法も含めて総合的に検証していきたい。また、令和１３年度からの次期計画策定も見据えながら、より適切な指標の在り方について検討していく。

「ふくしまマナビｉ(ｱｲ)」については、アクセス数だけでなく、その後どのように活用されているのか、それをどう把握するのか等についても研究してまいりたい。

【佐藤委員】

様々な生涯学習施策が展開されていることを心強く感じた。特に県立美術館の企画展などは多くの観覧者を集めており、学びや文化への関心を高める機会として大変意義があると考える。

生涯学習に取り組む目的は、キャリア形成や自己実現のほか、学ぶことが楽しいなど様々であるが、学んだ成果を地域や社会で生かす機会を充実させることも重要である。

また、「住民やＮＰＯなどによる地域活動に積極的に参加している県民の割合」が伸び悩んでいる状況を見ると、事業そのものだけではなく、地域活動へ参加するきっかけづくりや参加までの導線づくりが必要ではないかと考える。

高校生の探究活動に関わる中で、学校による取組の差も感じている。高校生だけでなく大学生についても、地域への愛着や関心を高める機会が重要であり、高校生と大学生の交流や地域で学びを実践する機会の充実が求められる。

また、「チャレンジ！子どもがふみだす体験活動応援事業」について、小学生と中学生の参加状況を伺いたい。さらに、生涯学習は学ぶことだけでなく、地域文化の継承や地域社会への還元といった視点も重要であるが、そのような観点はどの指標でみるのか伺いたい。

【遠藤社会教育課長】

「チャレンジ！子どもがふみだす体験活動応援事業」は、参加者の大部分が小学生となっている。学校規模や地域の実情に応じて実施しているが、中学生の参加は比較的少ない状況である。

【中村生涯学習課長】

文化継承の観点については、「住民やＮＰＯなどによる地域活動に積極的に参加している県民の割合」や「ふるさとの祭り参加民俗芸能継承団体数」などを通じて、間接的に把握している。

【菅家委員】

オンライン講座について伺いたい。オンライン講座は、講師の話を聞いて終了する形式なのか、それとも受講者同士が意見交換を行うような仕組みがあるのか。

私自身、この夏に様々なレクリエーション活動を見学したが、活動内容そのものに加え、参加者同士の会話や交流を楽しんでいる様子が非常に印象的であった。対面にはそのような良さがある一方で、人と直接関わることが苦手な方にとってはオンラインにも利点がある。双方の良さを生かすことが大切ではないかと思う。

【中村生涯学習課長】

市町村ごとの講座内容までは把握していないが、オンライン講座には様々な形態がありうると考えている。講師による講演のみの形式もあれば、チャット機能やグループディスカッション機能を活用し、受講者同士の交流を図るケースもある。

今後は、オンラインの特性を生かした学習機会の充実についても検討してまいりたい。

【池端委員】

施策１「人生１００年時代を生きる学びの推進」に関する指標である「個別の教育支援計画の引継ぎ率」について、その内容を教えていただきたい。

また、施策３の事業である「水害・土砂災害に関する防災教育を支援する出前講座」について、事業費が計上されていない理由を伺いたい。

意見としては、若者が将来に希望を持てるような取組が重要である。学びは将来への希望や可能性につながるものであり、新規就農支援や人材育成なども含め、引き続き若者を支える取組をお願いしたい。

【中村生涯学習課長】

個別の教育支援計画については、支援が必要な児童生徒の状況や支援内容を記載した計画を、進学や進級等に応じて適切に引き継ぐものである。

また、「水害・土砂災害に関する防災教育を支援する出前講座」については、土木部において職員が学校等へ出向き、命を守る講座などを実施している事業であり、ゼロ予算事業としている。

【李副会長】

本日も多くの学びをいただいた。２５の指標のうち１９がＢ評価以上であり、そのうち１２がＡ評価ということは、大変素晴らしい成果であると思う。

一方で、Ｃ評価やＤ評価については改善が必要である。「個別の教育支援計画の引継ぎ率」については、特別支援教育を必要とする児童・生徒が増加していることなども見える化できるとよいと思う。また、「オンラインを活用した生涯学習講座数」がＤ評価となっているが、これは見方を変えれば、県民が対面による学びを求めている結果とも考えられる。

大学としても、美術館や博物館を活用した学びの機会を増やしていきたい。学校現場で活用できる動画や映像資料の提供なども有効ではないか。大学として協力できることがあれば、積極的に協力していきたい。

【木暮会長】

他になければ、議事（１）福島県生涯学習基本計画の進行管理については、以上としたい。

委員各位からは、生涯学習施策の推進に関する貴重な御意見を多数いただいた。今後の事業展開に当たり、参考としていただきたい。

（１０）その他

【木暮会長】

最後に、本日の議事全体を通して、各委員から御意見等があればお願いしたい。

他になければ、これをもって本日の議事を終了したい。

限られた時間ではあったが、委員の皆様から多くの貴重な御意見をいただいた。生涯学習は非常に幅広い分野に関わるものであり、本日いただいた御意見が今後の施策推進につながることを期待している。

委員の皆様には、慎重な御審議をいただき感謝申し上げる。進行を事務局にお返ししたい。

（１１）閉会

○御礼の挨拶（紺野文化スポーツ局長）

以上、議事録に相違ないことを証する。

令和８年11月６日

議事録署名人　高野武彦

議事録署名人　山崎英明